

Fukuoka Sports Talent ID Project

チャンス  
子どもたちにスポーツで活躍できる機会を!

# 福岡県タレント発掘事業

事業説明資料

福岡県タレント発掘実行委員会



## ～ はじめに ～

福岡県タレント発掘事業は、独立行政法人日本スポーツ振興センターや公益財団法人日本オリンピック委員会といった国の機関と、福岡県が協力して、**子どもたちがスポーツにふれあう機会**や、**より高いレベルで活躍できる機会**を創るための事業です。



### **子どもたちがスポーツにふれあう機会をつくるために**

事業に参加したすべての子どもたちに、運動能力を評価した「評価表」をお返しし、現在の自己の能力を知らせることやトレーニングに対するアドバイスを行い、今後の能力発達を促すための情報や、能力に応じたスポーツへの可能性についての情報を提供しています。学校で行われる体力測定の結果を使用する参加の他、県内各地で測定会を実施し、多くの子どもたちが参加できる機会を作っています。



### **より高いレベルで活躍できる機会をつくるために**

福岡県タレント発掘事業は、1次・2次・3次選考が行われ、最終的に選出された子どもたちに、自己能力の開発と育成を目的としたプログラムを実施しています。また、子どもたちは、競技団体の協力により普段は体験する機会が極めて少ない競技なども含めた多くの競技を実践しながら、自分の可能性が活かせる競技は何かを探っていきます。

こうした取り組みにより計画的に育成された子どもたちに、自分の能力が活かせる競技適性情報を提供し、将来の目標に応じた競技種目へと繋いでいきます。



### **自己の可能性が活かせる競技選択モデル ～競技選択型～**

本県が競技力の向上を図る上で抱えている課題には、少子化やスポーツ実施率の低下、各競技団体における競技力の格差等があげられます。こうした課題を考慮しつつ競技力の向上を図る観点から、普段は経験する機会が少ない競技を含め、個人の運動能力や形態特性に応じた競技種目に導く「競技種目選択型」モデルを考案しました。

福岡県タレント発掘事業は、子どもたちの能力を

見 つ け

育 て

活 か す

事業です

## ～ 事業構成 ～



福岡県タレント発掘事業は、福岡県内を始めとする、多くのスポーツに関連する組織の協力の下、運営されています。

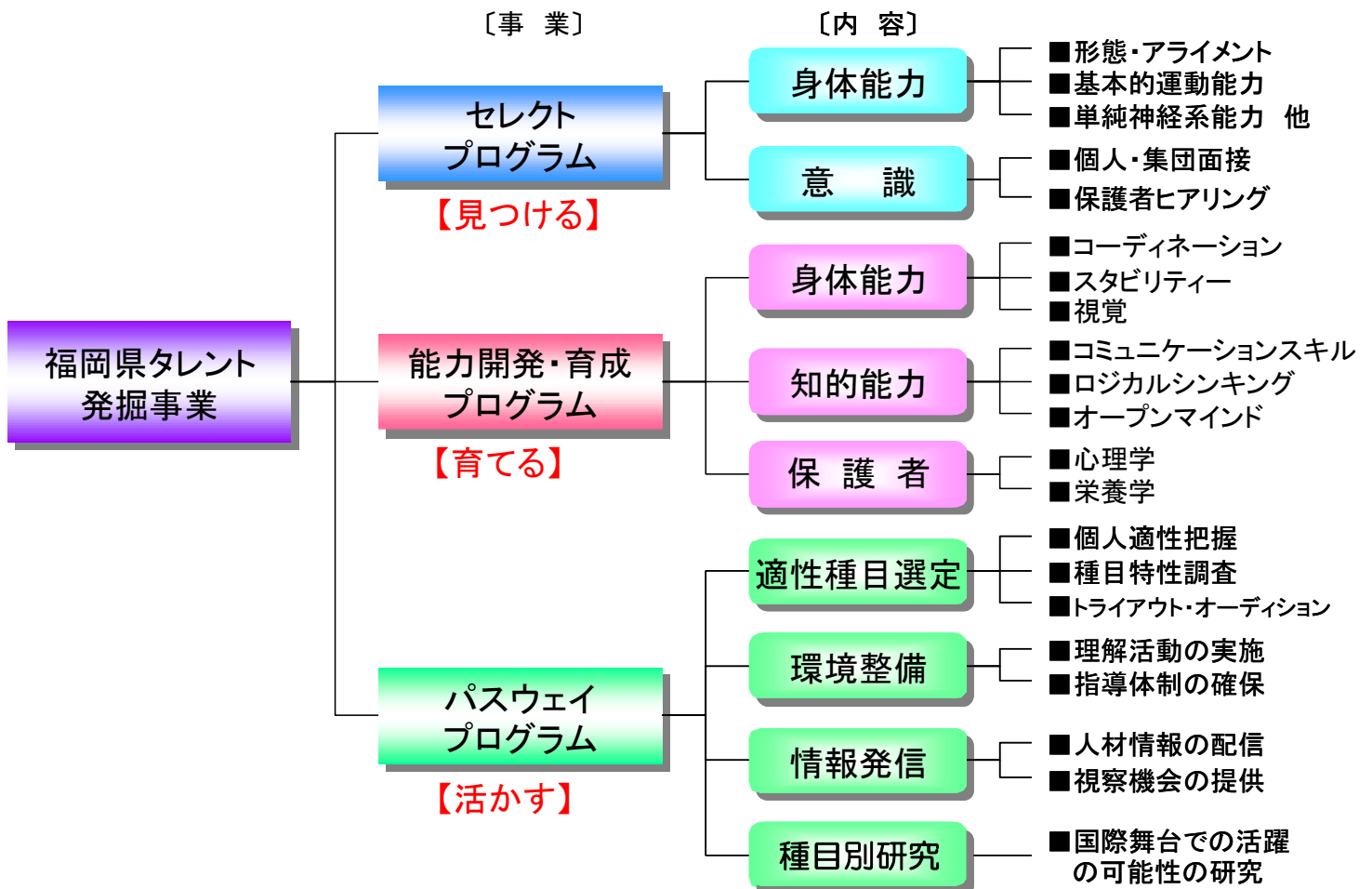
### ■実施主体

- (1) 主催 公益財団法人福岡県スポーツ協会      公益財団法人福岡県スポーツ振興センター
- (2) 共催 福岡県教育委員会
- (3) 後援 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- (4) 協力 公益財団法人日本オリンピック委員会
- (5) 主管 福岡県タレント発掘実行委員会



福岡県タレント発掘事業は、大きな3つのプログラムにより構成されています。

### ■事業内容

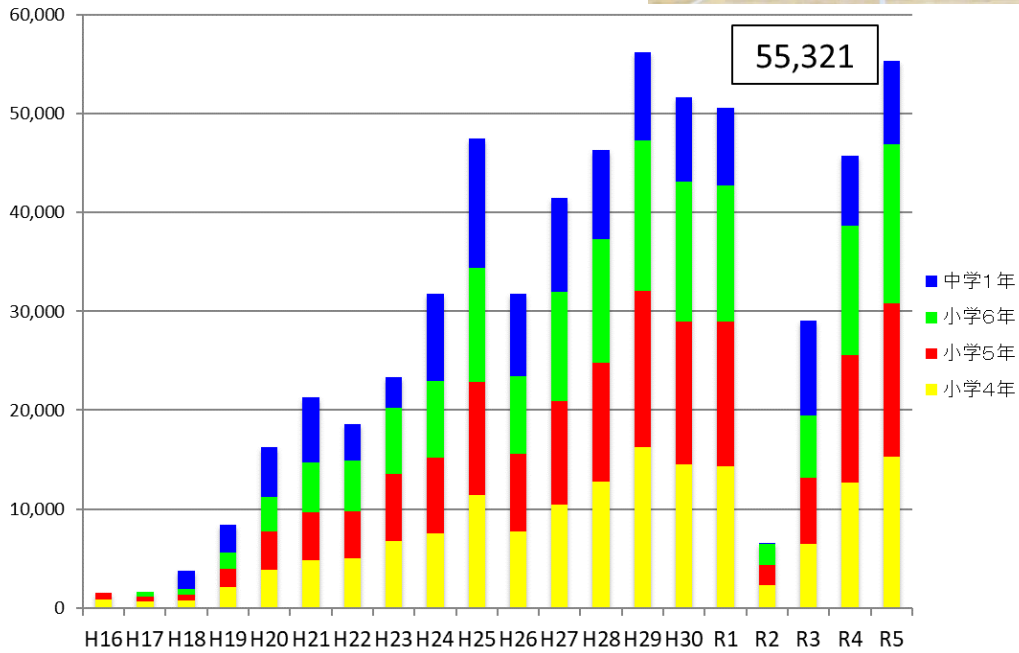


## ～ 参加傾向と成果 ～



**タレント発掘事業は20年を迎えました。**

■福岡県タレント発掘事業各年参加児童・生徒数  
1次選考会申込者数



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により応募者数が減少しています。

○これまでの主な競技成績（国際大会出場者・全国大会優勝者） ※ R6.3.31 現在  
国際大会出場者 64 名・延べ 586 名

【昨年度実績】

- 2023 世界選手権トラック（自転車競技）
- ブダペスト 2023 世界陸上競技選手権大会（陸上競技）
- HSBC ワールドラグビーセブンズシリーズ 2023 フランス大会（ラグビーフットボール）
- 2023 フェンシング世界選手権ミラノ（フェンシング）
- パリ 2024 オリンピック男子アジア予選（ハンドボール） 等

全国大会優勝者 94 名・延べ 256 名

【昨年度実績】

- 全日本自転車競技選手権大会トラック・レース（自転車）
- JOC ジュニアオリンピックカップ（ライフル射撃）
- 全国高等学校総合体育大会（フェンシング・ウエイトリフティング・陸上競技）
- 全国中学校体育大会（柔道・ウエイトリフティング）
- 特別国民体育大会（ウエイトリフティング・ライフル射撃・陸上競技） 等

～ 見つける ～

## セレクトプログラム



子どもたちの「能力を見極める」こと、子どもたちが「飛躍的に成長できる時期を逃さない」といった観点から、選考の対象学年を小学4年生から中学1年生としています。

### ■セレクトプログラムの性質

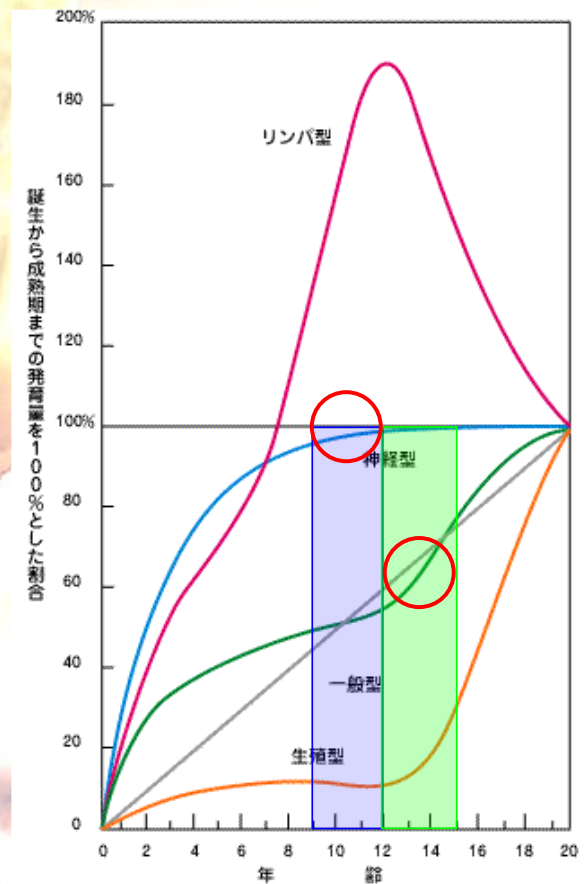
本事業は、競技種目を特定せずに個人の能力を開発・育成しつつ、育成された能力に応じた競技種目（適性競技種目）の選択を目指すものです。こうした選出後の目標の達成が可能となる人材を発掘するためには、子どもたちの能力が未完成であること、育成の効果が高い時期であること、子どもたちの能力がある程度発達し、能力の把握が可能なことなどの条件を考慮する必要があります。

### ■子どもの発育発達

右の図は、各機能の発達過程を示しています。注目すべき点は、各機能が同様に発達するのではなく、順番があるということ。この発達過程を考慮し、どの時期に何を見るのかを考えることが大切です。セレクトプログラムでは、小学4～5年生を対象とした Kids セレクトプログラム、小学6～中学1年生を対象とした Jr. セレクトプログラムで種目を換えながら、発育段階に応じた評価を行っています。

### ■Kids セレクトプログラム（小学4・5年生）

神経系機能は12歳でほぼ100%になります。この神経回路が形成されていく時期に様々な動きを経験させることは、大変重要といえます。また、体格もしっかりしてくることから、実施できる運動の幅が広がる時期でもあり、生涯で最も技術の習得速度が速く、「可塑性」と呼ばれる吸収した動きや感覚を忘れない時期である等の特性から、パフォーマンスだけでなく、神経系を考慮した種目により構成されています。



スキャモン発育発達曲線

### ■Jr. セレクトプログラム（小学6・中学1年生）

筋・骨格の発育速度が最も速い時期であり、今までは見えなかった、筋力や持久力が発現する時期であることや、より速く強い動きやねばり強さを獲得できる時期でもあることから、Kids セレクトプログラムの種目に加え、持久力も評価の対象としています。

【令和6年度学年別男女別受講生数】

性別	Kids		Jr.			計
	小5	小6	中1	中2	中3	
男子	17	19	18	21	16	91
女子	13	17	16	13	17	76
計	30	36	34	34	33	167

～ 育てる ～

## 能力開発・育成プログラム



選出した子どもたちの得意な能力を伸ばしつつ、潜在する能力を開発・育成し、将来より高いレベルで活躍するための能力の獲得を目的としています。

### ■能力開発・育成プログラムの性質

右の図は、トップアスリートに必要なと考えられる能力です。トップアスリートには、注目を集める大きな大会や、チームから離れ選抜チームとして参加する遠征大会、言葉が通じない・食べ物が合わない等の日常とは異なる環境下においても、自分の力を最大限に発揮できる能力が必要です。

能力開発・育成プログラムは、こうした将来のトップ選手に必要なとされる能力の獲得を目指し、発育段階に応じて計画的に子どもたちを育成します。



### ■プログラム構成

#### ●身体能力開発・育成プログラム

将来より高いレベルの技術を身につけるためのベースとなる能力として、コーディネーション、スタビリティ、視覚などのトレーニングを実施しています。

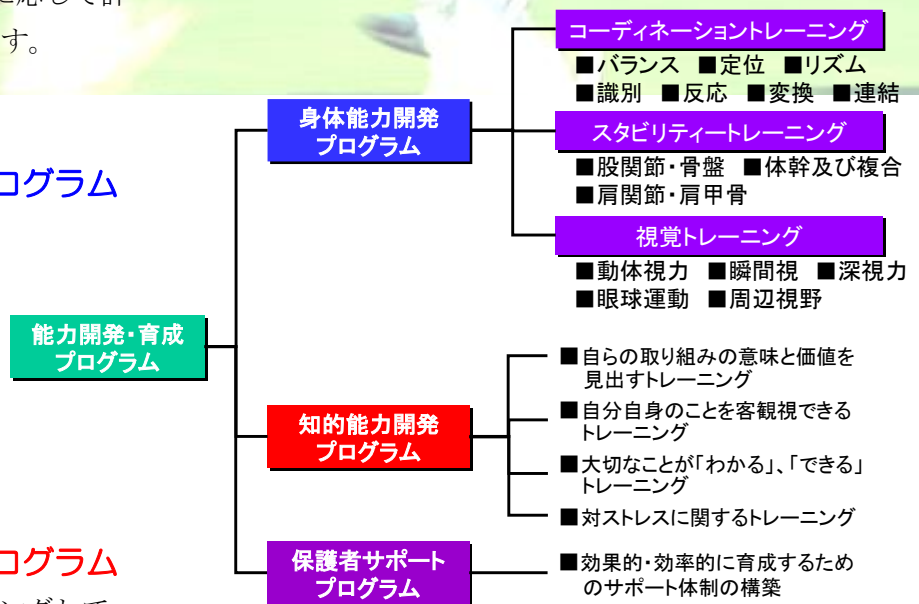
#### ●知的能力開発・育成プログラム

自ら課題を持ち、トレーニングして

いく姿勢は、技術習得の速度やレベルを向上させます。また、将来国外で行われる大会等へ参加した際にも物怖じせず、自分の力が発揮できるよう、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の知的トレーニングを実施しています。

#### ●保護者サポートプログラム

子どもたちの能力を効果的に高めるためには、日常的な指導の充実が重要です。保護者についても、プログラムの主旨や内容、栄養面、医・科学面などの知識学習を行い、日常のスポーツ活動をサポートしています。



～ 活かす ～

## パスウェイプログラム



育成された個人の能力を評価し、その能力が活かせる種目・個人の目標を達成できる競技種目へと繋がります。

### ■適性競技種目選択に導くパスウェイプログラム

パスウェイプログラムの主な目的は、自己の能力に応じた、より高いレベルで活躍できる競技種目へと繋ぐことです。この競技種目選択は小学6年次に中学期に実施する競技種目、また中学3年次には新たに発現してくる能力を踏まえ、世界を目指す最終種目の選択を行います。パスウェイプログラムは、各競技団体の協力により、より活躍できる競技種目、より効果的に成長できるフィールドへと導くプログラムです。

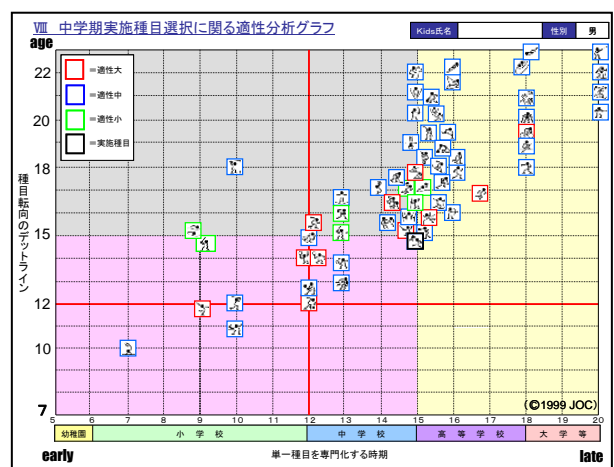
### ■運動・知的能力及び競技種目適性情報の収集

定期的な測定や、日誌等の記録を分析することにより個人の能力特性を相対的に評価します。また、能力開発・育成プログラムで実施した多くの競技体験の他、競技団体が主体的に実施する体験教室や、多くの競技団体が集まり受講生を評価するオーディション等により、競技種目への適性情報を収集し、分析しています。



### ■情報分析と資料作成及び三者面談による情報の提供

得られた情報から、個人の強みや弱みを導き出し、強みを活かし、弱みを克服するための方策等について分析・シミュレーションした情報により、自己の課題や特性を明らかにします。また、競技人口や国際競技力、育成環境レベル等の競技種目が持つ可能性についても分析し、自己の能力適性や目標に応じた競技種目を提示します。





～ 目指す ～

## 事業成果



事業の目的である「世界の舞台で活躍し、県民に夢や感動を与えることができるトップアスリートの育成」の他、多くの成果がもたらされています。

本事業の目的は、県民に夢や希望を与える事ができるトップアスリートの育成であり、オリンピックをはじめとする世界大会でのメダリストの輩出を目標としています。

現時点では、以下のような点が事業評価としてあげられます。

### ■ トップアスリートとしての成果

これまでに、本事業を修了した受講生473名（R6.3.31現在）のうち、約25%が国際大会への出場や全国大会での優勝を経験しており、その競技種目も増加する傾向にあります。また、修了生の中からNF（中央競技団体）の強化指定選手に選出される者が多く出ており、2020東京オリンピックに3名が出場し、成果が出ています。令和5年度国民体育大会では、10競技で21名が入賞し、男女で189点を獲得しており、本県の競技力向上に大きく貢献しています。

競技実績（R6.3.31現在）

- ・国際大会出場者数64名、（延べ586名）
- ・全国大会優勝者数94名、（延べ256名）



### ■ スポーツ関係組織・団体との連携体制の強化

事業の信頼を確保し最大限の効果を得るために、多くの組織や団体の協力を得ながら実施しています。本事業への関わりにより、スポーツの振興・推進に対する立場や考え方、担うべき役割等が共有化され、協力体制の強化に繋がり、各組織や団体がスポーツを通じて行う事業の効果を高めることに貢献しています。

- ・事務局：公益財団法人福岡県スポーツ協会／公益財団法人福岡県スポーツ振興センター
- ・各委員会：福岡県スポーツ協会競技力向上委員会／福岡県教育委員会／福岡県スポーツ振興課  
福岡県体育研究所／福岡県立スポーツ科学情報センター／福岡県中学校体育連盟  
福岡県高等学校体育連盟  
※実行委員会／セレクト委員会／能力開発・育成プロジェクト委員会／パスウェイ委員会
- ・各プログラム：福岡県各競技団体

## ■競技団体の活性化

競技によって、実施環境の数（部活動やクラブ等の存在）や競技人口等には大きな差があります。特に、学校体育で実施されない競技や、中学校・高等学校体育連盟主催大会の対象でない競技は比較的競技人口が少なく、優秀な人材の確保が大きな課題としてあげられることが少なくありません。福岡県タレント発掘事業では、こうした競技の団体が実施する体験教室等に一般の参加者とともに積極的に参加したり、高い競技適性を有する人材を繋いできた結果、全国大会で入賞を果たす等、競技力の向上に貢献しています。また、こうした取り組みは、多くの県民に競技を周知する機会ともなり、競技団体の活性化に繋がっています。

## ■指導者の育成と好循環

県内競技団体の指導者には、事業を構成する「見つける＝選考」「育てる＝育成」「活かす＝競技選択」の各フェーズで、多くの役割を担っていただいておりますが、特に育成面では科学的根拠に基づく、より高度で専門的な指導スキルを有することが重要です。

日本スポーツ振興センターは、全国で実施されているタレント発掘事業の指導を担う指導者を対象とした視察や研修等、指導スキルの向上を目的とした機会を講じています。

本県のタレント発掘事業に関わる指導者も、こうした海外視察を含む各種研修機会に参加し、事業のクオリティー向上はもとより、本県の競技力向上に貢献できる指導者の育成に繋がっています。

また、修了生の中には、育成プログラムや選考会等への関わりを持ちながら、将来的に体育・スポーツの指導者を目指す者も出てきており、子どもの将来を見据え、世界を目指した本事業のプログラムを受講した指導者が本県で活躍するといった好循環が生まれようとしています。



## ～ マネジメント ～

### 事業運営

 **各プログラムの精度を維持・向上させ、事業のクオリティ及び信頼の確保に努めています。**

#### ■中央スポーツ団体の協力

平成16年度に開始された当初から、独立行政法人日本スポーツ振興センター（当時は国立スポーツ科学センター）と公益財団法人日本オリンピック委員会の協力を得ながら、世界を目指したプログラムが行われています。

##### （1）（独）日本スポーツ振興センター

（独）日本スポーツ振興センターは、地域タレント発掘・育成事業や競技団体等との連携・協働の組織として「ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク」を設置し、以前から連携していた福岡県タレント発掘実行委員会もこれに加盟し、更に強固な連携体制を取っています。

具体的には、（独）日本スポーツ振興センターが実施する、各種プログラムへの参加や、本県発掘事業の各プログラム構築等に係る委員会や会議への専門スタッフの派遣等、多くの協力を得ています。



#### ■事務局スタッフ

事業を所管する事務局は、（公財）福岡県スポーツ振興センター及び（公財）福岡県スポーツ協会により運営されています。また、受講生の指導や評価、各プログラムの作成等にあたるスタッフは、専門的な知識を有する職員で構成されています。

高校保健体育科教諭5名／中学保健体育科教諭2名／小学校教諭3名／管理栄養士1名／  
看護師1名／事務職員1名／保健体育教職免許を有する嘱託員5名  
計18名

## ■指導者

県内競技団体及び中央競技団体から推薦された指導者や、学識経験者等の高度な指導スキルや専門的知識を有する人材が、事務局スタッフとともに指導にあたり、子どもたちの能力の拡大を図っています。

また、各 PF（福岡県内競技団体）タレント担当者を一堂に会し、TCM（タレントコーチーズミーティング）を実施し、指導全般におけるガイドラインの確認やミーティングで得た情報を能力開発・育成プログラムに関わる全ての指導者と共有することにより、効果的なプログラムの精度向上を図っています。



## ■会場

育成プログラムは、福岡県立スポーツ科学情報センターを拠点として、中学校、高等学校、大学等の体育・スポーツ施設を利用させていただきながら実施しています。また、1次選考では、市町村の体育館等で測定会を実施しています。



〒812-0852

福岡県福岡市博多区東平尾公園2丁目1-4  
福岡県立スポーツ科学情報センター内

福岡県タレント発掘実行委員会事務局

TEL 092-611-1717 FAX 092-611-1600